

旭化成ホームズ株式会社「環境報告書 2009」を発行

旭化成ホームズ株式会社（本社：東京都 新宿区、代表取締役社長：波多野 信吾）は、当社および関連会社の 2008 年度の環境保全活動と社会活動についてまとめた「環境報告書 2009」を発行しました。

本報告書は、当社の持株会社である旭化成株式会社のホームズセグメント（住宅事業）における取り組みを詳しくまとめたものです。今回は「高耐久型断熱・気密構造」を採用した新躯体システムや、家庭での環境行動を活かしたカーボン・オフセットモデル事業の推進といったトピックスを中心にまとめてあります。

「高耐久型断熱・気密構造」を採用した新躯体システムは、次世代省エネルギー基準に対応し、その性能を長期にわたって維持できる次世代ロングライフ住宅として進化したものです。また、家庭での環境行動を活かしたカーボン・オフセットモデル事業は、環境省公募のカーボン・オフセットモデル事業計画にも採択され、居住者の家庭での環境行動を促す「Eco ゾウさん Club」というソフトウェアを活用することで削減できる CO2 排出量で、住宅の製造・建設時の CO2 排出量をオフセットするというモデル事業です。

1. 報告対象期間

2008 年度（2008 年 4 月～2009 年 3 月）

2. 報告対象範囲

旭化成ホームズ株式会社、旭化成住工株式会社、
旭化成建材株式会社（旭化成ホームズ株式会社分）

3. 2008 年度のトピックス

- (1) 新開発した「高耐久型断熱・気密構造」を採用し、次世代省エネ基準に標準対応した新躯体システム
- (2) 自然の力を活かす最先端の環境設備によって、高効率な創エネを実現する「発電ヘーベルハウス」
- (3) 家庭の環境行動を活かしたカーボン・オフセットモデル事業の推進
- (4) 長期優良住宅の普及促進を目指す「超長期住宅先導的モデル事業」として、ロングライフ住宅ヘーベルハウスの取り組みそのものを応募して採択される。また、既存住宅流通を目指すストックヘーベルハウス事業をベースとする「優良住宅推進協議会」の設立に尽力
- (5) 生活エネルギーの消費量を「見える化」し省エネ・環境行動を促進するシステムを開発

- (6) 住環境シミュレーションシステム「ARIOS（アリオス）」にCO2シミュレーションを導入
- (7) 新築時以降も太陽光発電システムの導入を身近にする安心のオリジナル後設置工法を開発
- (8) アフターメンテナンス工場の現場においても産業廃棄物ゼロエミッションを目指し、資源循環センターによる再資源化を開始
- (9) 潤いにあふれた暮らしの喜びをお客様に伝えながら、各地の住宅展示場で育つ「緑のカーテン」
- (10) 環境展示会への出展、地域イベントなどを通じて環境保全活動の大切さを強くアピール

※当社ウェブサイトにも本報告書（PDF版）を掲載しております。

<http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/kankyo2009.pdf>

<本件に関するお問い合わせ先>

旭化成ホームズ株式会社	広報室	tel 03-3344-7115
〒160-8345	東京都新宿区西新宿 1-24-1	エステック情報ビル